

近畿東海矯正歯科学会抄録用紙

| | |
|--|------------------|
| 和文題 | 下顎前歯部に癒合歯をもつ叢生症例 |
| 氏名 (所属) | 近畿 花子(大阪府) |
| <p>【目的】または【症例の概要】 初診時年齢, 10歳7か月の男児. 上顎前歯の捻転と突出を主訴に来院した. 顔貌所見では口唇閉鎖時に緊張を伴った上下唇の突出が見られた. 口腔内所見では, オーバージェット6mm, 第一大臼歯の咬合関係はアングルI級(6┆6 近心捻転)であり, アーチ</p> <hr/> <p>注) 口腔内・顔面所見, パノラマエックス線所見, セファロ所見, 既往歴, 悪習癖などを整理して記載する. 文中の欧文文字は小文字で記入し, 人名は頭文字のみ大文字とする.</p> <hr/> <p>【診断】上下顎歯列の狭窄と過蓋咬合を伴った21┆癒合歯をもつ叢生症例と診断した. 【治療方針・方法】癒合歯の大きな移動は困難と考え, 非抜歯による治療を行うこととした. 1) 上下顎歯列弓狭窄および過蓋咬合の改善→ビムラーアプライアンス 2) 6┆6捻転の改善→クワドヘリックス 3) 上下顎歯列のアライメント→マルチブラケット装置 【治療経過】ビムラーアプライアンスを約2年間使用し, その後クワドヘリックスにて6┆6の捻転を改善した.</p> <hr/> <p>注) 抜歯の表記: 歯式を用いる場合は「4┆4 抜歯」と表記し「第一小臼歯抜歯」は「第一小臼歯抜去」と表記する. 装置名は和名, 片仮名, 欧文文字のいずれでも可ですが, できるだけ統一してください.</p> <hr/> <p>動的治療期間は4年7か月であった. 保定は上顎にラップアラウンドリテーナー, 下顎には3+3 歯間舌側保定装置を使用した. 【結果】または【結論】ビムラーアプライアンスを使用した結果, SNB角, SNP角に変化はみられなかったが, Y-axisは約1°開大し, mandibular plane angle (FH) は3°</p> <hr/> <p>注) 枠よりはみ出した字句は印刷されません.</p> | |

下記のいずれかに、右の○印を貼り付けて下さい



| | |
|---|------------|
| A | 学術口演 |
| B | 学術展示 |
| C | 認定医更新用症例報告 |

(連絡先氏名)

(連絡先)

TEL () -

- 1) 和文題名はワープロソフトをお使いのうえ、10.5ポイント、明朝体で入力して下さい。
- 2) 氏名は展示とともに主たる発表者を筆頭に挙げて下さい(○印やフリガナはつけないで下さい)。所属は氏名の後にカッコで囲んで下さい。
- 3) 抄録は研究内容を目的・方法・結果・結論に分けて具体的にお書き下さい。但し、主たる発表者一人につき一症例とします。発表症例は、診断・治療方法・治療経過・動的治療時および保定後までの経過を明記して下さい。
- 4) 本文は学術発表・症例報告発表ともに、**22字×36行程度、800字以内**として下さい。図表を挿入される方は本文記載範囲内に黒・白の明白な図・表を貼り付けて下さい。

- ・原稿は必ずこの用紙をご使用下さい。本紙の電子データは近畿東海矯正歯科学会 HP よりダウンロードして下さい。
- ・規格以外の抄録用紙は受理できませんのでご了承下さい。
- ・演題および抄録の採否ならびに最終校正等については学術委員会にご一任願います。
- ・締切日を厳守し、演題申込の際にWord ファイル形式(拡張子: .docx, .doc) で添付してください。